

時 報

◎畜産団体の統合 県総合畜連の調印成る

数年来の懸案であった県下の郡畜連と県畜連の合併は、昨年夏頃から次第に具体的な動きをみせていましたが、ついにこのほど合併への話し合いがまとまり、去る4月28日岡山市上石井の県信連会議室に関係団体の代表、信連合併委員のほか川上県農協中央会長ら関係者が出席して合併調印式が行なわれました。これは当初は事業内容の差異や各地域の特殊事情もあり足並みが揃わず難行していたものが、最近の経済情勢の動き等から、県、関係団体の代表が数次にわたる協議を行ない合併体制の確立に努めた結果、ようやく合併契約書に調印する運びになったものです。合併する団体は、県畜連と御津・赤磐・和気・都倉・小田笠岡・吉備・高梁・真庭・苫田・久米・勝田の各郡畜連の12団体で、このほか井原・英田畜連は参加が少し遅れますので、とりあえずこれだけで県総合畜連として7月1日発足を目標に、統合畜連事務局で各部面の準備を進めることにしています。

なお合併契約書による同連の行なう事業はつぎのとおりとなっています。

- 1、各種家畜の共同購販売
- 2、資材、飼料の共同購入
- 3、家畜市場の拡充へ参加
- 4、人工授精事業の実施
- 5、家畜飼育管理技術、経営指導強化

なおこの畜産団体の統合は、現在全国的な傾向として立遅れている農村振興のために、畜産団体を強化育成して組織的な指導面も含めた協力的な活動が要請されているながら、現実には各団体が行きなやんでいる状況にあるとき、いちはやく合併合理化にふみきった点、画期的な第1歩をふみ出したものとして大きな意義があり今後が期待されます。

◎フタのセリ市はじめて 勝間田で開催

勝間田郡畜連はさる4月25日、勝間田家畜市場で県下で初めての子豚セリ市場を開催しました。

当日は、一部津山・英田方面からの出場もあり、69頭がセリにかけられ、そのうち半数の34頭が売却されました。セリ価格は最高7,600円、最低2,800円、平均5,300円で、最初のころみとしてはまずまずの成績をおさめました。

同地方の農家の間には、一昨年、昨年頃から豚の好景気の影響もあって養豚熱が高まり、最近では繁殖豚の頭数もふえ、毎月かなりの数の仔豚生産をみるようになったので、同畜連では生産仔豚の取引を容易にして、さらに管内の養豚を伸ばそうとセリ市を開いたもので、これからも毎月25日に定期的に市場を開設することにしています。

◎岡山県2・3月の牛乳の動き

農林省岡山統計調査事務所から、4月28日発表された県下の本年「2月、3月の牛乳の動き」によると、生産と消費の状況はつぎのとおりです。

1、順調に伸びる牛乳生産

2、3月の県下の牛乳生産量はそれぞれ約3,588トン(19・1千石)約4,542トン(24・1千石)で、前年同月より2月は12・7%増、3月は22・5%もの増加を示した。

これはやはり頭数増加にともなう搾乳頭数の増加が主たる原因と考えられる。

2、牛乳消費は加工向が増加

一方2・3月の飲用向消費量はそれぞれ(20ページ下段へ続く)
れ約1,075トン(5・7千石)約1,463トン(7・8千石)であり、また加工向の消費量はそれぞれ約2,094トン(11・2千石)約2,661トン(14・2千石)でこれを前年同月と比較すると飲用向ではそれぞれ100・8%、121・8%と例年より多少寒気がきびしかったためか僅かな増加を示したに過ぎなかったのに対し加工向では144・2%、154・1%と大巾な増加をみせている。

3、県外との移出入も活発

2、3月の県外からの生乳の移入量はそれぞれ約700トン(3・7千石)約977トン(5・2千石)で前年同月の299・1%、329・0%と3倍から3倍以

岡山畜産便り 1961.05

上の激増ぶりで鳥取・島根・広島・山口・香川・福岡の6県におよんでいる。

一方移出量はそれぞれ約861トン(4・6千石)約954トン(約5・1千石)で前年同月の141・6%、137・7%となり京阪神を中心とした大阪・兵庫ならびに広島が主な県となっている。